

Bellefontaine Report

2007年8月2日(木)～8日(水)、青少年ベルフォンテン市派遣事業を行いました。応募総数25名のうち、第一次(英文筆記&作文)及び第二次(英語・日本語による面接)試験に合格した鈴鹿市在住の中高生12名が、鈴鹿市の友好都市であるベルフォンテン市に赴き、貴重な体験をしてきました。

8月2日(木)	鈴鹿出発 デトロイトへ グリーンフィールドビレッジ フォードミュージアム等見学
8月3日(金)	GM本社・タイガーススタジアム等見学 ベルフォンテンへ ホームステイ
8月4日(土)	ホームステイ
8月5日(日)	ホームステイ・フェアウェルパーティー
8月6日(月)	ホームステイ・市内各施設訪問 ・市長表敬訪問 ・消防署見学 ・ローガン郡小中学校教育長訪問 ・リトルラーナーズデイケアセンター ・ホンダ製作所 ・マリーズキャンディー
8月7日(火)	ベルフォンテン出発
8月8日(水)	帰国

メンバーは、中学生4人、高校生8人、内、男子が2人という構成でした。

最初にデトロイトに到着し、すぐに市内見学にでました。

フォードミュージアムでは、リンカーンが暗殺された時のゆり椅子や、ケネディーが暗殺されたときに乗っていた車(リンカーン)、公民権運動のシンボルであるローザ・パークス女史が席を譲ることを拒否したバスやそれまで差別されていたバスの停留所、KKKの衣装などが生々しく展示されていました。

生徒達の中には、ケネディが暗殺された当時の状況を知らない子も多く、そこでビデオを見て当時の様子を知ったり、公民権運動やKKKは、歴史で習ったという生徒以外は、そこで始めてシビアな現実を目の当たりにし、ショックを受ける子も少なからずいました。

この事業で最も重要なイベントは、ホストファミリーと交流するフェアウェルパーティーです。このパーティーでは、パフォーマンスを披露するのが恒例になっており、出発までの約2ヶ月間は、ほぼ毎週日曜日に集まっては、その練習に励みました。

今回のテーマは、

- ・日本人として、浴衣を自分自身で着られるようになること。
- ・外国のお友だちに浴衣を着付けてあげること。
- ・皆で浴衣を着て盆踊りを踊ること。
- ・最後に、心から気持ちを込めて歌をプレゼントすること。

浴衣の着付けは大変好評で、心を込めて歌った「3月9日」も、きれいな合唱だったとホストファミリーの皆さんが感動して下さり、頑張っって何度も練習した甲斐がありました。

<フェアウェルパーティー会場にて、浴衣の着付け>



<全員浴衣で見返り美人？>



6日には、市長の表敬訪問を初めとして、市内の各所を訪問しました。
ベルフオンテン市長の前では、皆緊張して固まっていた。
面白かったのは、消防署を訪問した時に、女子生徒達が消防車の中の写真を撮ることよりも、消防隊員のお兄さんと写真を撮りたがったことでした～（笑）

<消防署で人気のお兄さんと>



<震源地ゲーム>



<スパイダーマンのトビー・マグワイアに似ているそうです>

生徒達が一番楽しかったのは、リトルラーナーズデイケアセンターだったようです。3歳～5歳の可愛い子ども達に混じって「野球とサッカー、どっちが好き？」とか「イチローは知ってる？」などとお話をしたり、震源地ゲームやカプト作りなど一緒に遊んで楽しみました。最後に折り紙で作った手裏剣やお手玉などをプレゼントして、センターの子ども達も大喜びでした。

ホストに恵まれてハッピーだった子、食事が合わず苦労した子、言葉が通じない中現地の日本人に優しくされちょっぴりホームシックになった子と、現実は様々でしたが、全員がそれぞれのポイントで何かを感じ取り考えた5泊7日の旅でした。

帰国後のヒアリングでは、全員がこれを機に、是非また外国へ行って交流がしたい。これで終わらせたくない、という意見が多く、中にはS I F Aの外国語講座の英語・中級講座に申込み、英語がもっと話せるようになる！と夢を膨らませる生徒もいました。

とても嬉しいことです。みんな、次に繋げて頑張ってもらいたいと思います。（Chico）